

野の仏ギャラリー ⑬

釈迦如来坐像

南多久町大字下多久

光背付き坐像で、足元には別造りの蓮華台があります。頭部に螺髪を刻み、眼は半眼で落ち着いた表情です。右手を上げて施無畏印、左手は下げて与願印を結んでいます。胸元に下衣の裾が見え、その上に僧祇支、袈裟を彫り込んでいます。釈迦は出身部族名に由来し、仏教の開祖です。

銘「四国阿波三番 本尊釈迦如来」

「爲二世安樂」「下村サタ 同ヌイ」



○如来は真理に到達し修行を完成した者を称します。

○施無畏印は畏れなくてもよい、与願印は願いをかなえます、という印です。

○銘の阿波三番は金泉寺で、現在の徳島県板野町にあります。

多久市郷土資料館長 藤井伸幸

今月の論語

巧言令色 鮮なし仁

心にもないお世辞を言ったり、お世辞笑いをしたりする人は人徳が少ない。

今月の帰宅放送は、東原摩舎西溪校9年の野田未央さんです

教育長コラム

ちよっとい話



「家庭訪問」

その子のホームグラウンドに教師が身を置けば、その子の背景が教師の五感に働きかけてくる。一層その子の理解が深まり、益々愛おしくなる。

先輩から忘れられない家庭訪問の話を知ったことがある。国民みな貧しい戦後間もない頃、その子の家庭も例外ではなかった。訪問の間、その子は不在。しかし、後ろから「せんせー」と追いかけてきた。「はーはー」と大きく背を揺らしつつ、その子が「はいっ」と、先生の手のひらに乗せたのは、ぎゅっと握りしめられ指の形にへこんだ1個の饅頭。よそでは、お茶やお菓子を振る舞うのではないが、せめてお菓子を考えたのだろうか。どっやって手に入れたのか、とにかく間に合わせたのだ。その子の心を察するといじらしくて、胸いっぱいになったと語る目に涙が滲んだ。

教育長 田原優子

市民文芸

◆ それぞれに 振幅ありて 藤の花  
長く短く いっせいに 揺れ

川浪 信子

◆ 最後まで 信じる自分 神よりも

豊かな愛で あなたを守る

野崎 隆幸

◆ コロナ禍で テレビ三昧 居間について

カーテン開ければ つつじ満開

梶原恵美子

◆ いつの日か 命終ゆわれ 現世の

コロナ有事の 耐え難かりき

浦野 嘉恵

◆ クレーの絵 モチーフにした 木材大作

「月と太陽とビル」作者ら いすこ

尾形 節子

◆ 遠会釈 交はず人ある 蕨狩

武富 律子

◆ 人は誰も 逝く日を知らず 春惜しむ

中嶋 清子

◆ 叶ふなら 触れてみたしや 春の月

富樫 明美

◆ 眠り草 眠りて 吾子の こと思ふ

本村 則子

◆ 手甲の 朱色すばやく 早苗取る

おおやはな

◆ コロナ禍に マスクでかくす ノーメイク

高塚 ちかこ

◆ 教科書は 忘れスマホは 忘れない

田代 まつこ

◆ 児はママを ママはスマホを 眺めてる

松下 修

◆ コロナ風 春の 躍動 打ち消され

東島 すみ子

◆ 新しい 仕事が今を 片付ける

西山 残月

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《互選》

川柳 《多久川柳会 残月・正春選》